埼玉県立がんセンター図書館

成 田 俊 行*

埼玉県立がんセンター図書館

埼玉県立がんセンターは埼玉県政百周年記念事業として1975(昭和50)年11月1日に開設された本県のがんに関する医療および研究の中核機関であります。高度ながん医療を行うとともに、地域医療水準の向上に役立つために次のような機能と特色をもったがんセンターです。

- (1) 高度精密ながん医療の確保と実践のための医療機能と基礎的研究が可能な研究機能、医学図書館機能をもつ。
- (2) 研修病院になりうることを目標としての研修機能をもつ。
- (3) 民間医療との相互協力体制と医療技術の交流機能をもつ。
- (4) 先進がんセンター、研究機関との情報交換、人的物的協力体制の確立およびコンピュータ・システムを積極的に導入する。

職員数は、医師76名、看護職員243名、研究員26名を含む511名。病床数300、外来受付件数は1日平均600以上、国内でも多忙ながん治療施設のひとつであります。多様な内科的、外科的、放射線科学的治療に加え、緩和医療の面でもその評価が高く、当センターはがん疼痛とQOLに関するWHO研究協力センターに指定されています。

研究所は五つの部門において、がんの化学予防、肺がんにおける遺伝子の変化、発がん感受性、白

血病細胞の分化誘導などで国際的に評価されています。最新の研究トピックスのひとつとしてあげられるものに埼玉県民を対象にした緑茶飲用とがん予防についての報告があります。病院ではDNA診断、がん発生と腫瘍マーカーについての研究で成果をあげています。

平成7年から本館改修工事のための代替病棟の建設が始まり機能のグレードアップが図られています。この代替病棟は本館改修後、緩和医療のための基幹施設となる予定です。

この埼玉県立がんセンターの図書館員の誇りうめることは、設立基本構想に医学図書館機能が示されているように、図書館の充実に明確な配慮がなされていることであります。藤森正雄初代総長を始めとするセンター開設時の幹部および県当局の卓見に図書館員として敬意を表するとともに、それに応えるべく「最も文献が入手しやすい図書館」を目指しています。

以下に図書館の現状を紹介します。数値は平成7年度のものです。

*Toshiyuki NARITA : 〒362 埼玉県北足立郡伊奈町大字小室818.

(1996年7月8日 受理)

1. 文献情報サービス

電子媒体文献データベース（MEDLINE, Current Contents, 医学中央雑誌）を常時利用できるシステムを図書館内の4台の専用機で提供しています。利用者の直接操作が主体で、診療を終えた午後3時以降の利用はしばしば機械の空き待ちが必要となっています。図書館員は要望に応じて随時操作説明と代行検索を行っています。代行検索はJOISによる補足的検索を含めて年間約100件です。

定期的情報サービスとしては、雑誌コンテンツ情報のフロッピー・ディスクによる提供をCurrent Contents-Life Sciencesをソースデータとして利用者の個別の検索条件にしたがって18の部門/個人に提供しています。データは利用者のシステムがMacintoshなど、いずれであっても使い慣れたデータベースソフトで個人用文献データベースの構築や所蔵外文献の目次ブラウジングに利用されています。

所蔵外文献の原文コピー調達サービス（相互貸借）は年間依頼件数約1,200, 受付件数約400。3日程度+休日の所要時間での提供を目指しています。医学図書館協会加盟館となり、ファックスでの緊急依頼が可能となることは医師・研究者にとって大きな利益となることは確実であります。これに加え、インターネットの利用による米国内最新文献のファックス調達サービスを開始します。

2. 蔵書

受入雑誌数369誌、洋雑誌は英文国内誌を含め225誌、製本は21,441冊。単行本はAnnual Reviews類を含め12,550冊。貸出件数は雑誌486件、単行本851件。今後、皆さんの図書館からも大いに利用していただきたいと思います。単行本の所蔵目録はフロッピーで提供できます。返送費用は負担していただきますが、郵送貸出ができます。

3. 運営管理

職員は司書2名。パソコンレベルのコンピュータの積極的導入により、業務のコンピュータ化を一応完了しています。図書の発注・受入・蔵書管理および利用者の蔵書検索システムを構築しています。また、バーコード式雑誌利用度チェック・システムで雑誌購入予算の最適運用のための基本情報を得ています。市販の汎用ソフトとハードウェアの利用により導入した自作システムです。

24時間開放：職員に対し、暗証番号式電子キーにより常時利用可能としています。

4. 英文研究業績集 Selected Papers from the Saitama Cancer Center の編集制作

図書館サービスの基礎である利用者の研究テーマを理解するために図書館がその編集を行っています。

5. 外部開放

ウィークデーの9～17時、地域の医学研究者に閲覧、貸出、検索指導などの図書館サービスを提供しています。対応する職員が配置できないために積極的PRは行っていないませんが、地域の医師、看護系学生、教育職に利用されています。

6. 患者・家族用図書サービス

センター職員、外部ボランティアの運営による患者文庫「ひまわり」を病棟デイルームに配置した書架で提供しています。蔵書数は約3,000冊、ほとんどが患者・職員からの寄贈です。

7. 地域医学図書館ネットワーク

当センターを含む、県立の病院、看護学校を設立メンバーとして、県内の医学図書館ネットワークが平成4年に発足し、現在は民間病院を含め10機関が加盟しています。相互協力と研修に重点をおいて活動しています。

8. 学術研究事務支援機能

将来の図書館業務の展開を、学術活動支援部門としての機能の要求の増大と予想し、その準備としてスライド作成システムとインターネット端末の利用指導、操作代行を開始します。

日本医学図書館協会への加盟は、歴代図書館指導者の目標であったのですが、かくいう図書館員は必ずしも積極的ではなかったのであります。なぜなら、図書館間資料相互利用サービスで、ほとんどの協会加盟図書館が、当方からの一方的なサービス要求に応えてくださる現在の状況に甘えてい

れば、あえて加盟によってさまざまな分担的義務を負わなくてもいいのではないかと考えていたのです。これに対し、「当然、協会に加入して、医学図書館としての水準を高める姿勢を維持しなければならない」としたのは図書館長でもある武田文和総長でした。図書館員としては、諸賢に叱られそうな話ですが、スタッフとしては大いに励まされた思いでありました。かくなるうへは、加盟館の一員として、最大限協会事業に協力しようと考えを改めております。ご指導のほどよろしくお願いいたします。